

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 10 月 22 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100249		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム 白木の郷		
所在地	広島市安佐北区白木町大字小越10230番地 (電話) 082-828-0123		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100249-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年10月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・山間にある、自然豊かな地域で静かな小高い山の上に位置する2ユニットのグループホームです。家庭的な雰囲気、個々の生活を大切に笑顔で暮らしていけるよう環境作りに努めています。地域の行事やサロンに出向いたり、地域の方に来ていただき、餅つきや畑仕事を手伝ってもらったり、他法人のグループホームと地域で花火をして季節ごとに楽しい行事を行い地域にとけこんだグループホームです。しかし、今は新型コロナウイルス感染症予防の為、今まで行われていた行事や地域での行事も中止となり、事業所内での活動性を持って生活をし、パズル、書道、レクリエーション、野菜作りと創作活動を行っています。また、広島市からの依頼で認知症サポーター養成の育成に協力させて頂き地域・小学校・中学校との関わりを大切にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム白木の郷の特徴的な取り組みは、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所作りと、利用者の楽しみに着目した支援を行っている点である。まず、季節行事を開催する際に地域のボランティアと協力したり、災害時は福祉避難場所として地域住民に活用してもらうなど、相互に協力して良好な関係作りを行い、事業所理念のもとに地域密着型サービスとして根差し、地域のニーズに応え続けている。二つ目は、好きなことや好きな物を、日常生活上に取り入れている事である。畑で野菜を作ることから始め、全利用者が参加して調理をしたり、花のアレンジや得意な畑仕事を行う等、趣味活動が継続できるように積極的に支援している。</p>

自己評価	外部評価	項目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に出勤者全員で読みあげる事で、意識の向上や共有に努めている。また、理念を軸にしたケアを行っている。	法人理念とキャンパスの理念をもとに、事業所理念をつくり、主任と相談員、職員は部署目標を定めて、短期間でより具体的なケアを実践できるように取り組んでいる。職員は、目線の高さを利用者に合わせて、話を聞く姿勢に気を配り、良好なコミュニケーションを取るよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の催し物に参加や清掃を手伝っていただいたり、ボランティアの方が来園され、編み物や制作活動をして頂いている。 (上記コロナの為自粛中)	七夕の笹や、クリスマスツリーにする樹木は、自治会長に協力してもらい入手しており、地域の方と一緒に飾りつけている。利用者の家族を含む地域のボランティアが、法人敷地内の草刈りを行うことが定例化しており、活動のお礼に、事業所から飲料を提供して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザー養成講座を地域・学校で開催し認知症の理解を深めていただけるよう務めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催ではあるが、近況報告や事故報告・また、AEDの使用の仕方、認知症サポーター養成講座を開催している。	運営推進会議の開催は、家族の要望から参加しやすい土曜日に変更したが、現在は新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて中止している。日頃から事業所へ足を運んでくれる家族から要望を聞き取り、会議の中で議題として取り上げている。4月は地域の困難事例について意見交換を行った。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	白木地域包括支援センターと情報交換を行い協力関係を築いている。また、運営推進会議に自治会長や民生委員にも来ていただき、密な情報交換を行い協力関係を築いている。	事業所に在籍している認知症アドバイザーが、地域包括支援センターから依頼され、地域の認知症サポーター養成講座の開催に尽力している。この関りから、地域包括支援センターと連携や、積極的な情報交換を行う機会がある。	

自己評価	外部評価	項目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は日中施錠を行っていない。以前は、両者の転倒防止のために家族・多職種と協議し、身体拘束を行ったケースがあったが、現在は対象者はいない。今後も身体拘束ゼロを目指し、年に2回の研修や処遇会議等の場を利用するとともに、2カ月に1度身体拘束等廃止委員会を行い、職員の意識の統一を図っていく。</p>	<p>利用開始時に身体拘束について、法人と事業所の方針の説明を行っているが、家族に理解を得る事が難しい部分がある為、繰り返し伝える事で理解してもらえるように取り組んでいる。日頃から利用者の行動を制限しない事から、事前に家族へ起こりうる事故等のリスクについて説明している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内外で権利擁護研修など多くの研修を受け、それを基に部署内で、伝達研修や話し合いを行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約は、計画作成担当者が重要事項説明書を用いて説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ひだまりの会（運営推進会議）を利用し、家族・利用者・地域の方の意見を聞く場を設けるとともに、事務所に意見箱を設置し、疑問を持ったことやおかしいと感じたことには随時指摘をいただき、改善を図っている。</p>	<p>感染症予防の観点から、面会を制限しているが、家族が利用者宛に荷物を届けに来た時や、家族が参加する地域のボランティア活動の場で意見を聞く機会があり、電話やホームページからも意見を受け付けている。家族の要望から、利用者が完成させた塗り絵や、手紙を送った実例がある。</p>	<p>事業所を訪れる家族の意見を取り入れ、運営に反映させている。現在、法人の方針から、事業所での直接面会に制限を設けていることや、外部との積極的な交流が行えない事も影響して、事業所の運営が見えにくい状況下となっている。家族全体の意見を取り入れる仕組み造りに期待する。</p>

自己評価	外部評価	項目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回スタッフ会議と週一回の処遇会議にて職員間で意見の交換を行っている。また、管理者との面談も設けている。	定期開催の会議の場で、意見を聞く機会を設けている。公の場で意見を伝え難い職員がいる事を考慮し、主任から積極的に語りかけ、日頃の業務の中で自由に意見交換ができる環境づくりに取り組んでいる。法人は、職員の働き方等について希望を確認し、実現できるように検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに個人目標を設定し、上司とその目標についての評価を行っている。その場も、意見交換の場として機能している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新任職員に先輩職員がついて業務指導などを行う。また、外部研修に参加し、報告会用紙や会議にて振り返りを行っている。法人内(北ブロック)でマニュアル作成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内ではあるが他施設との合同会議に参加し、ともにマニュアルを見直したり職員育成の研修会を開催している。他法人の認知症アドバイザー同士で研修会等を行い古流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に事前面接を行い、在宅での生活や、施設であれば施設での生活について把握している。また、困りごとや不安な事があるか傾聴するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に事前面接を行う事により、在宅での苦勞やこれから入所に向けての不安等を傾聴し、その気持ちを共有するようにしている。また、運営推進会議や外出行事にも参加の願いをして関係を築くように努めている。また、入所待機をしている間にも、地域交流会やひだまりの会に招待することで、入所前から利用者・家族との関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族様の意見・要望を聞きながら各専門職が連携して支援を行っている。特に初期は新しい環境に馴染めないでいる方が多い為、様子観察や声掛けに力を入れ、安心できるように配慮したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様のペースを尊重することを第一に自由に過ごせるように配慮している。また、共同生活を行う事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と日帰り旅行に行ったり、各施設ごとの行事に参加して頂き、家族間の関係が継続するような支援をしている。また、年賀状など、季節の節目の手紙を利用者様が家族へと送っている。病院受診なども家族に付き添っていただくように呼び掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様のほとんどが白木町の方で年賀状など家族へ手紙を送る支援をしている。ふらっと外出やドライブを行い、地域に出向く機会を増やしている。	通院目的で外出した際の行き帰りに、自宅近くに寄り、地域の方々に車内から手を振って挨拶をしたり、利用者全員が毎年、年賀状を家族宛てに書くことを続けている。文字や絵が書けない利用者の場合は、担当職員が本人の意向を確認しながら代筆し、関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目 (Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事全般、役割をもって助け合いながら生活を送って頂いている。利用者同士で声を掛け合いながら過ごされている。また、レクリエーションも頻繁に行い、楽しく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームでの対応が難しくなり、契約を終了した方でもご要望があれば相談に応じ退所先の手配などを行う。また、併設施設に転所するケースも多く、持続した支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、ご利用者様の表情や変化について共有することに努め、週に一度の処遇会議にて全体で協議し個別ケアについて話し合いを行い、ケアについての変更や改善を行っている。	利用前面談のヒアリングや、日頃の職員との会話や行動の中から、表出された思いや意向を個人記録に書き留めて、職員間で共有している。意向の表出が困難な利用者の場合は、簡単な選択肢を提示し自己決定を促したり、家族から情報を得て職員と対応方法を検討する様に工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接にて生活歴を把握するように努めている。また、ご家族様に居室の馴染みの物があれば持ってきていただくようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	併設事業所兼務の看護師と主治医と情報を共有しながら体調管理を行っている。一人一人と関わりながら、気付きがあればその都度職員間で話すとともに、記録をしている。		

自己評価	外部評価	項目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のニーズや問題点を処遇会議にて話し、家族や関係者（主治医・看護師）の意見を取り入れ介護計画、書類作成、などを日々の記録でチェックを行っている。	モニタリングは、毎日実施し電子記録をすることで達成率が割合で示され、計画を見直す際の指標となっている。この1年間は、全ての職員意見を反映した計画作成を目指して取り組んできた。課題は引き続き残っているが、利用者の強みや好きなことを盛り込んだ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各々に個人記録を作成している。業務日誌や連絡帳も活用しながら、情報共有を行い、日々のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様の各地域のお祭りに参加したり、利用者様の趣味に合わせた地域サークルへの参加をしたり、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の生活歴や特技、趣味を把握し、公民館のクラブ活動にも参加している。他にも、農業に携わっていた方も多く、GHの畑作りなども手伝ってもらったり、地域の方の畑作りにも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族様の希望にできるだけ添えるように支援している。病状に合わせ医療機関と連携を取っている。	利用開始時に、かかりつけ医について説明し、本人、家族が希望した医師の診察を受けている。緊急時や、定期通院等の連携が取りやすい事から、多くの利用者は嘱託医を選んでいる。専門医を受診する際は職員が付き添い、日頃の様子を伝え適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設事業所との業務をしている看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、ご家族様に状態確認の電話を差し上げたり、医療機関と連携を取るように努めている。退院後は入所調整を速やかに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合には、併設事業所に転所して頂くか、他医療機関・施設に紹介を行っている。	利用開始時に、事業所では看取りを行っていない事を説明している。食事の摂取量が少なくなる等の状態が変化した場合は、主治医を含む関係者間で話し合い、今後の方針を検討している。緊急時の連絡方法や対応マニュアルは整備し、敷地内の同一法人他施設にも協力を得られる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や外部研修を通じて、急変時や事故発生時の対応について学ぶ場を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回の消防・避難訓練を行っている。そのうちの一回は、地域の方にも参加して頂き、火災時の避難誘導のシミュレーションを実施している。(現在コロナ感染予防の為紙面のみ) また、土砂災害についての避難マップを用いて、消防署の職員による講話も行っている。平成30年7月6日の西日本豪雨災害の際にも、地域の方が白木の郷に避難された。その後も福祉避難所として場所の提供をしている。	火災発生時の夜間と日中を想定した訓練を実施している。コロナ禍では、地域住民や消防署員の参加が難しく、職員を対象として紙面上で避難誘導路を可視化して確認することで工夫している。食品等の備蓄は3日分以上確保しており、地域住民の避難場所として事業所が地域に活用されている。	

自己評価	外部評価	項 目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄のケアなどの日常的なケアや、言葉かけなどを心掛けプライバシー保護に努めている。また、会議時に接遇や言葉かけについての話し合いをしている。	「言葉使いに気を付ける」を部署目標に設定し、利用者と職員が慣れ合いになりつつある中で、再意識しながら接する様に取り組んでいる。不適切な言動が見られた場合は、代替となる伝え方を職員と管理者が共に考え、会議や研修のテーマに取り上げるなど学ぶ機会も確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人様が自分で決定して頂けるよう配慮しコミュニケーションを図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを尊重することを心掛け、ご本人の意思を尊重するよう努めている。たとえば、その日のペース、状態、希望に応じて食事時間を前後したり、買い物に行きたいとの希望があればその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一回の訪問理容や、希望によっては外部の店舗に出向くことや、希望の方にはマニキュアを塗ったり、化粧をしている。男性の方も髭剃りなどの声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には、厨房で作ったものを利用者の方と一緒に盛り付け配膳を行っている。月に一度は利用者様と買物から料理まで一緒に行っている。また、敷地内の畑で出来た野菜を収穫し一緒に料理している。時には近隣の飲食店で食事などもしている。	同一法人の他施設で作られた食事が届き、利用者と職員が協力して盛り付けと配膳を行っている。季節の野菜を取り入れて献立に1品追加したり、利用者が主に調理を行って、おやつや昼食を作る日も設けられている。利用者の好みを取り入れて握りずしやビール等も楽しむ機会がある。	

自己評価	外部評価	項 目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師や施設の管理栄養士と連携をとり、個々に応じた糖尿食や減塩食など栄養バランスがとれた食事を提供している。毎日決まった飲み物ではなく、好みの飲み物を提供し、水分量を確保できるようにしている。また、水分補給の難しい方には、サポートゼリーを提供し、一人一人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	週に1度訪問歯科を利用し、歯科衛生士から口腔ケアの指導・アドバイスをもらい、利用者の様子をみながらケア実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便チェック表を作成し、個々の排便周期を把握するようにしている。その周期に合わせた、声掛けやトイレ誘導を行っている。	日々の排泄パターンは用紙に記録して、個人の排泄状況に応じてトイレで排泄ができるように支援している。立ち上がり動作をプログラムに含むリハビリ体操の実施と、下膳や掃除等の生活動作を継続することで、下肢筋力や歩行能力の維持を目指し、排泄の自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や歩行運動、水分補給にも配慮している。適度な運動・水分補給にも配慮していると共に個々によっては、乳酸菌飲料を利用し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	順番や日には決まっておらず、ご本人様に希望があるか聞いて入浴して頂いている。また、香り付の入浴剤を利用したり、冬至の季節にはゆず湯を楽しんでいただいている。	入浴は、曜日や回数を限定することなく、希望に応じていつでも入浴ことができ、洗顔料や化粧水は使い慣れた好みのものを使用できる。ゆず湯を実施したり、入浴剤を利用して、香りや色を楽しんでもらえるように、BGMを流し歌を唄うなど、個々に応じた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけに限らず、玄関前のベンチや畳なども利用して頂いている。ご本人様が過ごしやすいスペースで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と連携を図り、薬の変更があった場合は、内服後の日々状態を報告し情報共有に努めている。職員全体が服薬について把握するよう薬局と連携を図りながら、リスト作成し、誤薬、服薬の忘れがないよう十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や特技を把握し、地域のサークルに参加したり、個別支援で外食やドライブを行い、気分転換をしていただけるように努めている。施設内では、ご本人様にあった役割の場を提供している。月に一度、生花も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	誕生日や季節に応じた大型の外出に、ご家族と一緒に出掛けたり、ご自身の必要な物などを頻繁に近隣スーパーへ買い物へ出かけている。(自粛中)	広い敷地と、豊かな自然環境を活かして、朝から栗拾いに出たり、敷地内で散歩をしている。春には、利用者とお弁当を作り外で食べながら桜の花見を開催している。日常的に、畑の野菜やプランターの花の水やり、玄関前で日光浴を行うなど、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者が少なく、施設で立て替えているが、買物に行った際には、ご自身で会計が行えるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(Aフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族様に協力して頂き、可能な方のみ実施している。正月には、全員がご家族様に年賀状を送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感ある花を飾ったりしている。毎朝コーヒータテ、香りを感じてもらったり、掃除の時に換気を行っている。フロアでアロマをたくこともある。</p>	<p>共用空間には、オゾン除菌機を設置し、換気をこまめに行っている。職員が毎日掃除をする際に、手伝ってくれる利用者を募り、助け合いながら行っている。季節の生花を利用者と職員が生けて居間に飾り、折り鶴を集めて文字を模った作品を展示し季節感や生活感を取り入れている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>畳場所を設置して、一人になれる空間を作っている。ソファの位置や状況に合わせて席をかえたりし配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族様に協力して頂き、馴染みのもの（絨毯・椅子など）家族写真を置いたりしている。また、その方に合わせて、ベッドの位置を換えたりしている。</p>	<p>利用開始時と、生活環境の変化に適応が困難な場合は、自宅で使っていた寝具類や、身近な生活の品を持参してもらえよう依頼している。敬老の日に事業所から贈られた似顔絵や、趣味活動で制作した作品を部屋に飾り、居心地よく過ごせる工夫を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>基本的には”出来る事は自分で”を心掛け、個々によっては居室に支援バーを設置し、残存機能を維持できるように配慮した支援を行っている。</p>		

V アウトカム項目(Aフロア) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に出勤者全員で読みあげる事で、意識の向上や共有に努めている。また、理念を軸にしたケアを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の催し物に参加や清掃を手伝っていただいたり、ボランティアの方が来園され、編み物や制作活動をして頂いている。 (上記コロナの為自粛中)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザー養成講座を地域・学校で開催し認知症の理解を深めていただけるよう務めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催ではあるが、近況報告や事故報告・また、AEDの使用の仕方、認知症サポーター養成講座を開催をしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	白木地域包括支援センターと情報交換を行い協力関係を築いている。また、運営推進会議に自治会長や民生委員にも来ていただき、密な情報交換を行い協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は日中施錠を行っていない。以前は、両者の転倒防止のために家族・多職種と協議し、身体拘束を行ったケースがあったが、現在は対象者はいない。今後も身体拘束ゼロを目指し、年に2回の研修や処遇会議等の場を利用するとともに、2カ月に1度身体拘束等廃止委員会を行い、職員の意識の統一を図っていく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内外で権利擁護研修など多くの研修を受け、それを基に部署内で、伝達研修や話し合いを行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、計画作成担当者が重要事項説明書を用いて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ひだまりの会（運営推進会議）を利用し、家族・利用者・地域の方の意見を聞く場を設けるとともに、事務所前に意見箱を設置し、疑問を持ったことやおかしいと感じたことには随時指摘をいただき、改善を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回スタッフ会議と週一回の処遇会議にて職員間で意見の交換を行っている。また、管理者との面談も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに個人目標を設定し、上司とその目標についての評価を行っている。その場も、意見交換の場として機能している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新任職員に先輩職員がついて業務指導などを行う。また、外部研修に参加し、報告会用紙や会議にて振り返りを行っている。法人内(北ブロック)でマニュアル作成を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内ではあるが他施設との合同会議に参加し、ともにマニュアルを見直したり職員育成の研修会を開催している。他法人の認知症アドバイザー同士で研修会等を行い古流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に事前面接を行い、在宅での生活や、施設であれば施設での生活について把握している。また、困りごとや不安な事があるか傾聴するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に事前面接を行う事により、在宅での苦勞やこれから入所に向けての不安等を傾聴し、その気持ちを共有するようにしている。また、運営推進会議や外出行事にも参加の願いをして関係を築くように努めている。また、入所待機をしている間にも、地域交流会やひだまりの会に招待することで、入所前から利用者・家族との関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族様の意見・要望を聞きながら各専門職が連携して支援を行っている。特に初期は新しい環境に馴染めないでいる方が多い為、様子観察や声掛けに力を入れ、安心できるように配慮したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様のペースを尊重することを第一に自由に過ごせるように配慮している。また、共同生活を行う事で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と日帰り旅行に行ったり、各施設ごとの行事に参加して頂き、家族間の関係が継続するような支援をしている。また、年賀状など、季節の節目の手紙を利用者様が家族へと送っている。病院受診なども家族に付き添っていただくように呼び掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様のほとんどが白木町の方で年賀状など家族へ手紙を送る支援をしている。ふらっと外出やドライブを行い、地域に出向く機会を増やしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事全般、役割をもって助け合いながら生活を送って頂いている。利用者同士で声を掛け合いながら過ごされている。また、レクリエーションも頻繁に行い、楽しく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームでの対応が難しくなり、契約を終了した方でもご要望があれば相談に応じ退所先の手配などを行う。また、併設施設に転所するケースも多く、持続した支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、ご利用者様の城や変化について共有することに努め、週に一度の処遇会議にて全体で協議し個別ケアについて話し合いを行い、ケアについての変更や改善を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接にて生活歴を把握するように努めている。また、ご家族様に居室の馴染みの物があれば持ってきていただくようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	併設事業所兼務の看護師と主治医と情報を共有しながら体調管理を行っている。一人一人と関わりながら、気付きがあればその都度職員間で話すとともに、記録をしている。		

自己評価	外部評価	項目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のニーズや問題点を処遇会議にて話し、家族や関係者（主治医・看護師）の意見を取り入れ介護計画、書類作成、などを日々の記録でチェックを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各々に個人記録を作成している。業務日誌や連絡帳も活用しながら、情報共有を行い、日々のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様の各地域のお祭りに参加したり、利用者様の趣味に合わせた地域サークルへの参加をしたり、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の生活歴や特技、趣味を把握し、公民館のクラブ活動にも参加している。他にも、農業に携わっていた方も多く、GHの畑作りなども手伝ってもらったり、地域の方の畑作りにも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族様の希望にできるだけ添えるように支援している。病状に合わせ医療機関と連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設事業所との業務をしている看護師と情報を共有しながら体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、ご家族様に状態確認の電話を差し上げたり、医療機関と連携を取るよう努めている。退院後は入所調整を速やかに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合には、併設事業所に転所して頂くか、他医療機関・施設に紹介を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や外部研修を通じて、急変時や事故発生時の対応について学ぶ場を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回の消防・避難訓練を行っている。そのうちの一回は、地域の方にも参加して頂き、火災時の避難誘導のシミュレーションを実施している。(現在コロナ感染予防の為紙面のみ) また、土砂災害についての避難マップを用いて、消防署の職員による講話も行っている。平成30年7月6日の西日本豪雨災害の際にも、地域の方が白木の郷に避難された。その後も福祉避難所として場所の提供をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄のケアなどの日常的なケアや、言葉かけなどを心掛けプライバシー保護に努めている。また、会議時に接遇や言葉がけについての話し合いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人様が自分で決定して頂けるよう配慮しコミュニケーションを図るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを尊重することを心掛け、ご本人の意思を尊重するよう努めている。たとえば、その日のペース、状態、希望に応じて食事時間を前後したり、買い物に行きたいとの希望があればその都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に一回の訪問理容や、希望によっては外部の店舗に出向くことや、希望の方にはマニキュアを塗ったり、化粧をしている。男性の方も髭剃りなどの声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には、厨房で作ったものを利用者の方と一緒に盛り付け配膳を行っている。月に一度は利用者様と買物から料理まで一緒に行っている。また、敷地内の畑で出来た野菜を収穫し一緒に料理している。時には近隣の飲食店で食事などもしている。		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>医師や施設の管理栄養士と連携をとり、個々に応じた糖尿食や減塩食など栄養バランスがとれた食事を提供している。毎日決まった飲み物ではなく、好みの飲み物を提供し、水分量を確保できるようにしている。また、水分補給の難しい方には、サポートゼリーを提供し、一人一人に応じた支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>週に1度訪問歯科を利用し、歯科衛生士から口腔ケアの指導・アドバイスをもらい、利用者の様子をみながらケア実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排便チェック表を作成し、個々の排便周期を把握するようにしている。その周期に合わせた、声掛けやトイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>ラジオ体操や歩行運動、水分補給にも配慮している。適度な運動・水分補給にも配慮していると共に個々によっては、乳酸菌飲料を利用し、予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>順番や日にちは決まっておらず、ご本人様に希望があるか聞いて入浴して頂いている。また、香り付の入浴剤を利用したり、冬至の季節にはゆず湯を楽しんでいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけに限らず、玄関前のベンチや畳なども利用して頂いている。ご本人様が過ごしやすいスペースで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と連携を図り、薬の変更があった場合は、内服後の日々状態を報告し情報共有に努めている。 職員全体が服薬について把握するよう薬局と連携を図りながら、リスト作成し、誤薬、服薬の忘れがないよう充分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や特技を把握し、地域のサークルに参加したり、個別支援で外食やドライブを行い、気分転換をしていただけるように努めている。施設内では、ご本人様にあった役割の場を提供している。月に一度、生花も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	誕生日や季節に応じた大型の外出に、ご家族と一緒に出掛けたり、ご自身の必要な物などを頻繁に近隣スーパーへ買い物へ出かけている。(自粛中)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者が少なく、施設で立て替えているが、買物に行った際には、ご自身で会計が行えるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(Bフロア)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族様に協力して頂き、可能な方のみ実施している。正月には、全員がご家族様に年賀状を送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感ある花を飾ったりしている。毎朝コーヒをたて、香りを感じてもらったり、掃除の時に換気を行っている。フロアでアロマをたくこともある。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>畳場所を設置して、一人になれる空間を作っている。ソファの位置や状況に合わせて席をかえたりし配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族様に協力して頂き、馴染みのもの（絨毯・椅子など）家族写真を置いたりしている。また、その方に合わせて、ベッドの位置を換えたりしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>基本的には”出来る事は自分で”を心掛け、個々によっては居室に支援バーを設置し、残存機能を維持できるように配慮した支援を行っている。</p>		

V アウトカム項目(Bフロア) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム白木の郷

作成日 令和4年11月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	コロナ禍で家族との面会制限もあり, 利用者の様子が解りにくく, 不安に思っている家族もいる。	家族に解りやすく様子を伝え, 安心して頂けるようにする。	2か月に一度, 本人の写真と共に生活の様子を手紙等にして知らせる。	1年
2	26	介護計画やモニタリングが, 全員の意見・アイデアが反映されていない。	介護計画・モニタリングに関わる人すべての意見・アイデアが反映している。	担当者会議以外の日程が決まっている会議に事前に課題として選出し, 統一を図る。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。